

県民生活審議会
第1回 参画・協働推進専門委員会の議事要旨

・日 時 平成16年6月18日(金) 15:00~17:00

・場 所 兵庫県公館 第2会議室

・出席者 委員:

小西委員長、山下副委員長、鳥越会長

小林委員、小沼委員、北野委員、牛建委員、野崎委員

県:

清原理事(参画と協働・男女共同参画社会担当)、井筒県民政策部長、
木村地域協働局長、藤原参画協働課長、沖本参画協働課参画協働システム
係長

・議事 年次報告について、地域づくり活動の事例集について

・主な内容

1.年次報告(案)について

(誰の名前でまとめるのか)

- ・ 条例等ができた時点で、主体は県ということだが、年次報告は、誰が書くべきなのか。事務局だけで書いていていいものなのか。
- ・ 参画協働課の名前で年次報告を出すと、きれいごとしか書けず、無味乾燥な数字が並んでしまうおそれがある。年次報告では、今後の方向性を入れたい。委員会の責任でどこかで出せないか。
- ・ 条例の規定では、知事は、「年次報告を毎年策定するものとする。」となっているので、県の策定義務になる。ただ、県の書いていることが本当に正しいことなのかといった検証が必要であり、審議会の委員の意見を聞くことになる。
- ・ 年次報告は、参画・協働推進専門委員会のような第三者的な機関で出すべきだと県の内部でも議論があった。将来的には、そういう方向で検討したい。

(平成15年度のまとめ方)

- ・ 条例、指針・計画ができたが、これらが無い頃にくらべて、結果どう変わったのかが、みんなの知りたいところである。年次報告は指針・計画の進め方の反省材料や今後の方向を知るための材料としての役割が一番大きい。
- ・ 指針・計画ができたのは、平成15年度末だから、あまり変わっていないというならばそういう趣旨のことを書けばいい。
- ・ 時間に余裕があれば、委員会としての年次報告を公表して、皆さんから意見をいただき、手を加えるのがいいのではないかと思う。しかし時間的制約があるので、今年度はとりあえず事実関係を羅列していくことではしょうがないだろう。必要があるなら、そのことを年次報告に書けばよい。来年度どのような形にするかは、今後時間をかけて委員会で議論すればよい。

- ・ 2章はここまで分厚くする必要があるのか。もう少し薄くてもいいのではないか。
- ・ 「先導的な施策」ひとつひとつについて、評価することになると、そもそもこの委員会でやっていいかという問題がある。
- ・ 年次報告で個別の施策について、参画と協働の観点から評価を入れていこうとすると、大変な作業になるし、それを毎年度やっていくことが望ましいか疑問である。むしろ総論的なところをもう少し充実させる方がいいのではないか。
- ・ 年次報告の最初のところで思い入れを込めて、ハートのあることを書いてもらうことはいいことである。初年度は、どれだけ分厚いものになっても最初の思い入れも事業の参画と協働の中身のことも必要である。また県民に内容を伝達する努力をしないといけない。最終的には、県の思いが県民に伝わるよう年次報告を作らないといけない。
- ・ 16年度で復興基金がなくなる。復興基金のなかで参画・協働の先導的な事業がなされ、また、ボランティア基金を活用して、被災地でやった事業を被災地外でも展開してきたが、これらの基金で誘発されてやってきた諸事業をどう統合するのか。事業の整理の方針は年次報告にでてくるのか。
- ・ 今年度いろいろな検証作業が進んでいる。事業を一般化してするのか、終了するのか検討が必要である。一般財源を使って被災地外で進めているものは、全県的な展開を視野に検討しているが、財政状況が厳しいので、今年度の成果が鍵になる。

(来年以降の年次報告のあり方について)

- ・ 年次報告の1章はほとんど中身がなく2章の施策の実施状況が報告書の大半を占めているが、こういうスタイルがいいのか今後の検討課題である。
- ・ 個別の評価は将来的にも、あまり書けないだろう。個別の評価が出たときに、それを踏まえながら、こういう新しい動きがあった、それは我々の計画、施策の方向にどう適合しているのかという意味での総論的なことを充実していくことが将来的には望ましいと思う。
- ・ 今年は総論部分の、各論の施策から踏まえてどうなっていくのかという部分は、あまり書くことがないかもしれない。しかし、この部分が条例全体の評価につながっていくため、来年は総論部分が、ボリュームも増え、重要になってくる。また、2章の施策の実施状況、昨年と今年とで、どういう厚みが増したか、どういう新しい芽があるか、2年目にはどういう課題が出てきたか、などがメインになって書き方が変わってくる。
- ・ 可能なら、2章の施策の実施状況は、いろんな施策に対して参画・協働の視点から施策実施状況についての成績表みたいなものでつけられればよい。視点を決めて、よくできました、まだまだですね、といった通知簿のようなものになる。それをトータルで見て1章のところでどういう事をするか、またはここをもっと進めるとタイプの分類をしていく方がいいのではないか。
- ・ 地域づくり活動を継続させていくためには、人材育成が重要である。今後の重点的な取り組みとして、認識しておいていただきたい。

(検証との関連について)

- ・ 3年目の検証は条例の検証であり、年次報告は施策に関しての問題だから、必ずしも同じ話にはならないと思う。
- ・ 検証が尻切れトンボになることを心配している。評価については、拙速に走らずに条例

の検証時にきちっとやればいいのではないか。合わせて、同じような事業は部署別にせず一緒にしないと県民は混乱してしまう。

(広報のあり方について)

- ・ 年次報告そのものはこういった形で広報するのか。ホームページで出すとか印刷物で出すことが必要である。
- ・ これは地縁団体等の目に触れるのか。年次報告は、県の方針でこのようなとりまとめをしていることを、分かってもらわなければならない。
- ・ 県としては、県民に対して参画と協働で美しい兵庫をつくりましょう、そのことについて今、実際どうなのかを県民の皆さん自身に実感していただき、それぞれの取り組みをしていただくということにつなげていくことに意義がある。県民局ごとで実施するいろいろなフォーラムを活用することや、「21世紀兵庫長期ビジョン」が具体的な行動プログラムが折り返しをすぎたことなどもあり、今年から2カ年かけているんな議論をしようとしているので、夢会議の場を活用することも考えている。

2. 地域づくり活動事例集について

(事例集の必要性について)

- ・ 活動する立場としては、このような事例集があるとおもしろいと思う。
- ・ このような資料は便利かもしれないが、県内の事例は大概知られている。遠くの町や外国の事例のほうが参考になる。
- ・ 今時、情報はインターネットを使って自分で探せば、他府県の事例が分かるし、また作りたいところを作るから、新たに作ることに意味がない。
- ・ 参画と協働は時間も経済力もある高齢者が率先して取り組んでほしいと思っているが、高齢者世代はインターネットを使えない人も多い。そういう世代にとって、印刷物のような形で、情報が目に付くところにあるということが当分の間必要ではないか。
- ・ できるだけいろんな人たちが使っていただけるように、少くく無駄があっても、できることはやった方がよい。
- ・ 事例集は、活動主体の出会いと交流のための媒体として活用する、という目的のためなら作る意義がある。それをどう進めていくのかに力点を置いて書けばいいのではないか。

(事例集の編集方針について)

- ・ 参画と協働は、これまでの県の施策と違って県民がもっと主体となってやっていくべきだという思いが県側に強かった。それを踏まえて、事例集は「県民の参画と協働の推進に関する条例」の精神に則った形でとりまとめていただきたい。
- ・ 収集する事例は、行政が関与したものだけでなく、県民の主体的な活動を積極的に取り上げていただきたい。
- ・ 事例集をつくりあげるプロセスが見えるような取り組みが必要である。
- ・ 震災記念協会がまとめた「みどり空間マネジメント事例集」のまとめ方も参考にしようか。
- ・ 事例集については、活動団体の人など、県民から編集委員を設けてその人たちがアイデアを出して面白いものを書いてくれたほうがよい。それが参画と協働の本来だと思う。
- ・ 編集委員を設けるのが難しいのであれば、格式ばったものではなくて、読んでおもしろ

いと思うものを、県民がかなり前に出てくる形でまとめることができたらと思う。

- ・ 事例集の編集については、今回の案をプロトタイプとして考え、編集委員の公募、編集委員会の設置、またはそれに代わる県民が前に出る方法について検討する。

(レイアウトについて)

- ・ レイアウト案にある「ここがポイント」と「専門委員会委員からのコメント」というのは、誰が責任を持って書くのか。
- ・ 「ここがポイント」は活動をしている方たちが主観的に思っていることを書く。そして、それを見て関心を持った人は、アプローチをして質問もできるという形になるのだろう。
- ・ 読む人にとっては「ここがポイント」というところは大事なところなので、活動をしている方たちが主観的な思いだけで書いて良いのかどうか、気にかかった。
- ・ 「ここがポイント」は活動をしている方たちが主観的に思っていることを書く。そして、それを見て関心を持った人は、アプローチをして質問もできるという形になるのだろう。
- ・ 「ここがポイント」については、事例集を見た人が何か聞きたいときには書いた人が答えて下さいという了承を取ればよいと思う。
- ・ 「専門委員会委員からのコメント」については、記載する必要はないだろう。
- ・ レイアウトは柔軟に考えた方がよい。

(地域づくり活動登録との関係について)

- ・ この事例集は、登録制度とはどういう関係にあるのか。セットで考えられないか。
- ・ 登録しているものからだけ事例を選択するというのでは枠にはめられるので、それ以外のものも一緒に入れていいだろう。
- ・ 事例集をつくるよりも、登録制度のデータをどのように活用するのか工夫した方がよい。
- ・ 先日、登録制度の登録団体を確認したら、大きな団体よりも小さな団体がたくさん登録していたので、触発されて我々の団体も登録した。